

# 天理市

## 櫛本校区を中心とした北部地区

### まちづくり基本構想

平成29年3月



橿本町を中心とする市北部地区は、奈良から桜井・明日香へと続く北から南への周遊の入口であり、名阪国道・西名阪自動車道による東西の交通の要衝といえる地域です。

北部地区は和爾氏、柿本氏、在原氏など古に名を馳せた一族が拠点を構えた地域で、東大寺山古墳群や和爾下神社をはじめ、歌聖柿本人麻呂の遺髪を葬った歌塚、さらには在原業平を祀った在原神社など古代の文化遺産が数多くあります。また、江戸時代は上街道の要衝として商業が栄え、馬つなぎ、うだつ、8代目市川團十郎が奉納した榊神社の実増井の井筒などが今も残っており、様々な歴史を感じられる地域です。

また、農業も盛んな地域でイチゴ、ブドウ、タケノコそして万葉集にも歌われているマコモタケやエコ米などが栽培されています。

しかしながら、これらの魅力が市外はもとより市内にも発信できていないのが現状です。

天理市では平成26年度より、市内3地区において街づくり協議会を発足させ、それぞれの地域活性化を図ってきており、北部地区においても地域主導で進めてきた取り組みの裾野を広げるため、平成28年度から新たに街づくり協議会を発足させて住民・地元産業界・行政等が一体となって協議を行っています。

今般、地域に点在する様々な課題に対応する可能性を見出し、北部地区の目指すべき方向とその実現に向けて、基本構想を策定します。

天理市総合計画

平成22～31年度までの10年間を計画期間として、めざすべき都市像「つながり・にぎわい・未来を創造するまち」の実現に向けて定められた長期的かつ総合的な計画



天理市まち・ひと・しごと創生総合戦略

本市が安定した人口構造を保持し、若い世代を中心に将来にわたって市民が安心して働き、希望に応じた結婚、出産、子育てができる地域社会の構築を目指し、地方創生に意欲的に取り組むための指針

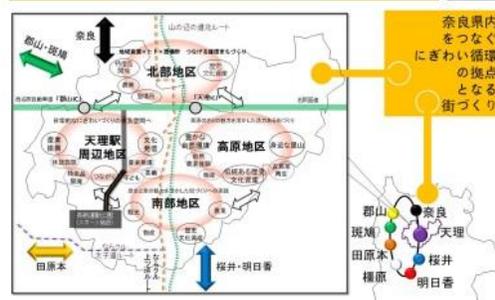


天理市都市計画マスタープラン

都市計画法に基づき、目指すべきまちの将来像とその実現に向けたまちづくりの基本的な方針・都市計画を展開する指針

県と天理市とのまちづくり包括協定

天理市×周辺市町村  
にぎわい循環 MAP



連携

整合性

- ・天理駅周辺地区基本構想
- ・高原地区基本構想
- ・南部地区基本構想

その他部門の関連計画等

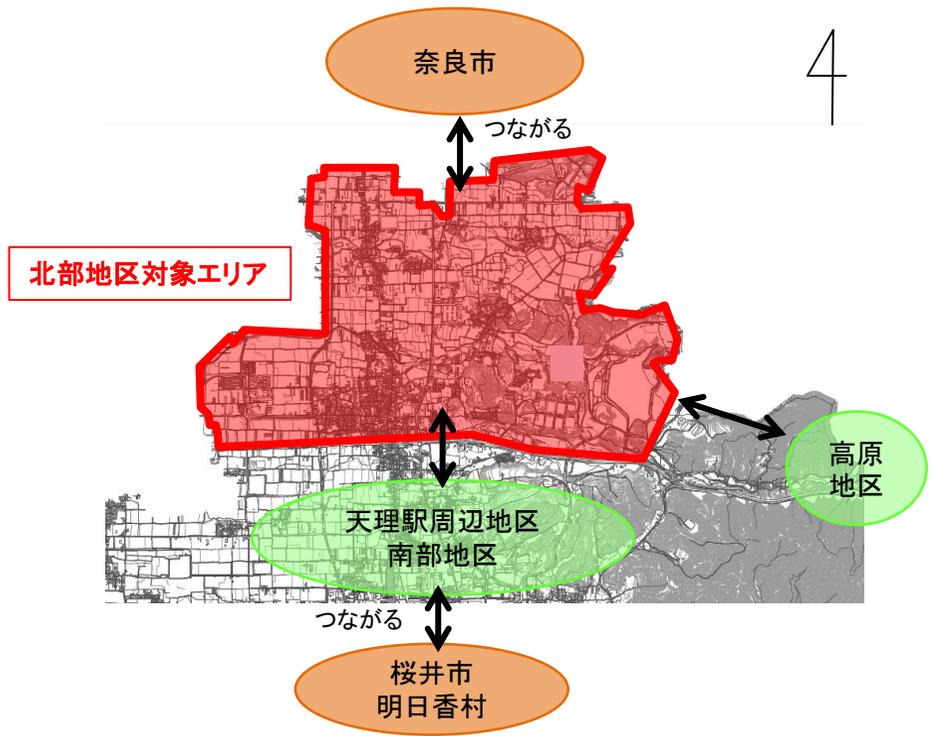
北部地区まちづくり基本構想 P 2 へ

# 【1】基本構想の概要

## (1) 基本構想策定の目的

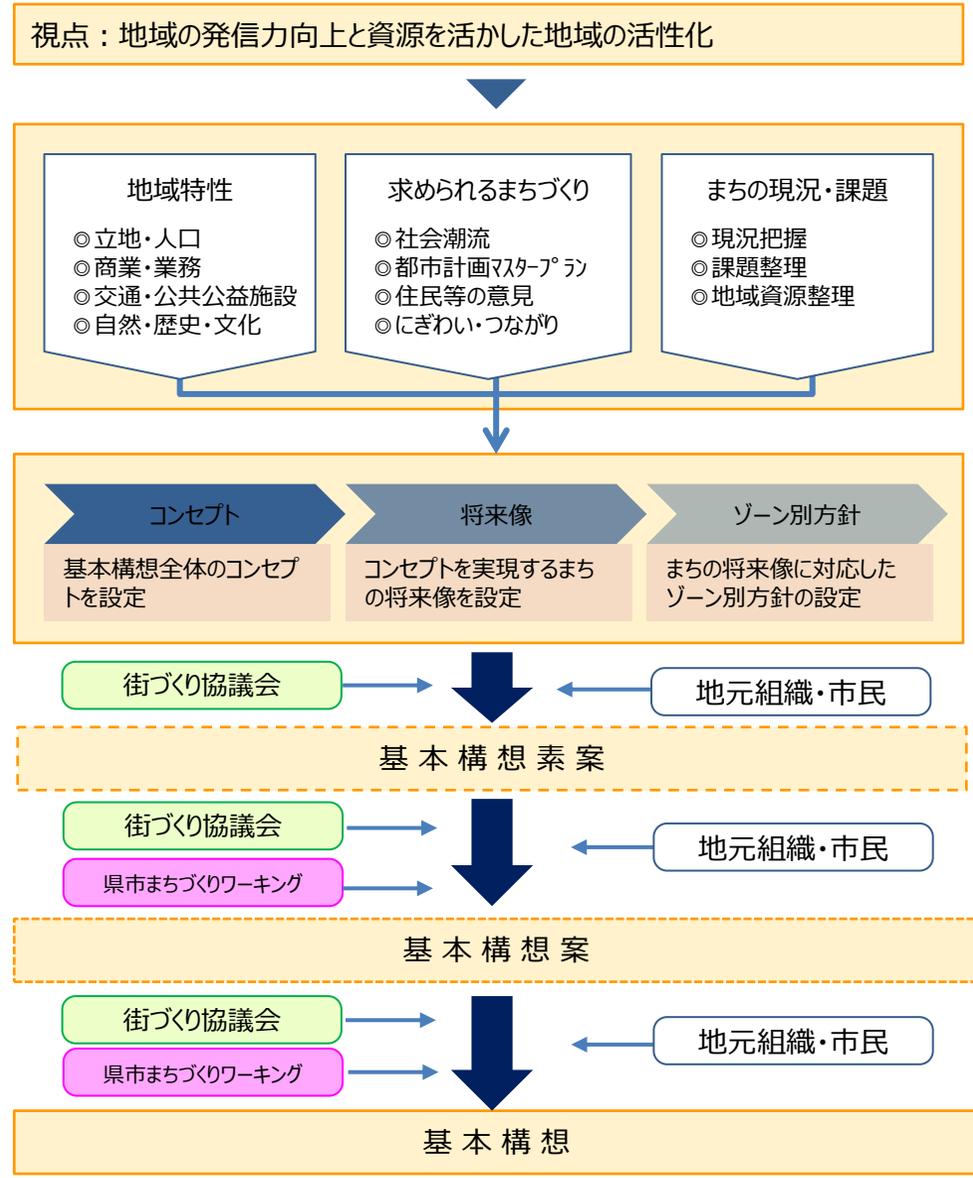
- ◆ 将来ビジョンの共有  
地域住民・地元産業界・学校・行政などが協働してまちづくりを推進するため、将来ビジョンを共有する。
- ◆ 将来ビジョンの実現  
地区が抱える課題や長期的な展望を踏まえた総合的な計画を立て“にぎわい”と“つながり”を感じるまちづくりを実現する。

## (2) 対象区域



櫛本校区を基本エリアとし、隣接する奈良市から天理駅周辺、南部地区、そして桜井市、明日香村へとつながる広域的な連携を進める。

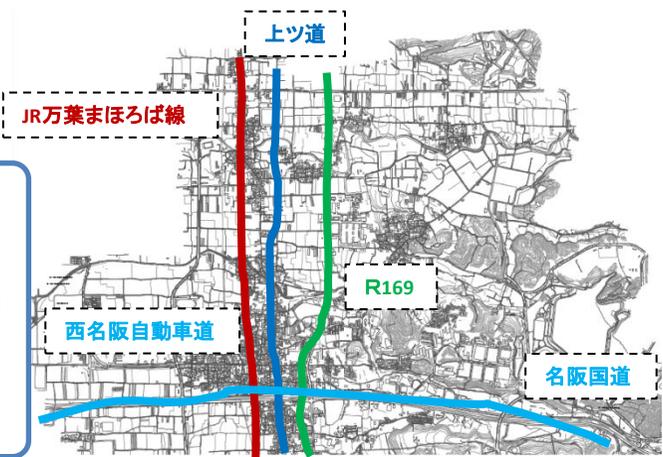
## (3) 基本構想策定の流れ



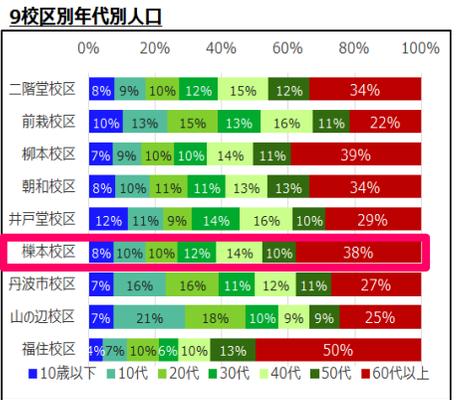
## 【2】地区の現状

### (1) 立地、条件

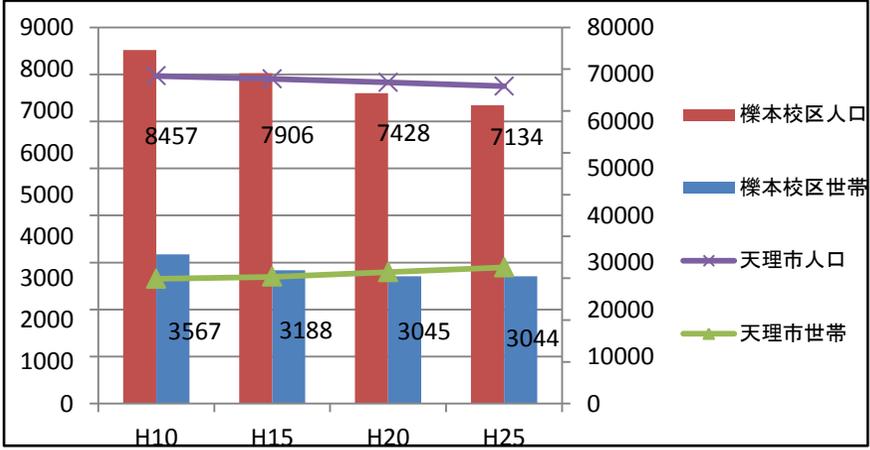
- ◆市北部地区は、北側は奈良市、西側は大和郡山市に隣接する。
- ◆広域的な交通アクセスがよく、大阪都市圏から約1時間の通行圏域にある。
- ◆国道169号、JR万葉まほろば線のほか、上ツ道などが縦断する。



- ◆櫛本校区の人口は6,939人(H28.10月)であり、穏やかではあるが減少傾向にある。
- ◆世帯数は3,031世帯(H28.10月)であり、平成20年からほとんど変動はない。
- ◆人口の年齢構成では、高齢化率は平成27年で31%であり、市内9校区の中では比較的高齢化が進んだ地域となっている。



櫛本校区の人口と世帯数の推移



平成27年「天理市 町別世帯数及び人口」資料を基に作成

### (2) 産業

- ◆人口減少、商店の減少により街ナカのにぎわいがなくなってきており、空き家・空き店舗が多くなってきている。
- ◆シャープ(株)や積水化成品工業(株)など大きな企業が存在する。
- ◆農家人口は減少傾向にある。
- ◆農業としては、イチゴ、ブドウ、タケノコ、そして珍しい農産物として「マコモタケ」が栽培されている。近年では、大学との連携による加工品の開発の取り組みも広がってきている。

	H17	H22	H27
総数(人)	1,152	611	466

資料：農業センサス及び世界農林業センサス

	H26	H27	H28
面積(ha)	0.12	0.12	0.22



マコモタケ



イチゴ



シャープ株式会社



積水化成品工業株式会社

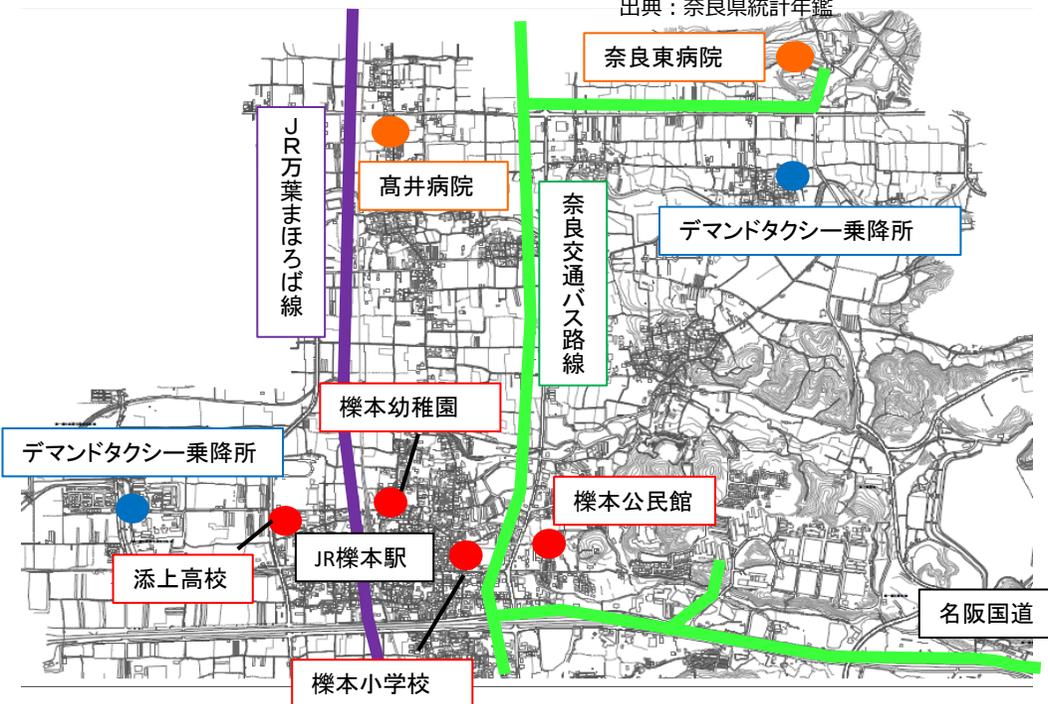
## 【2】地区の現状

### (3) 交通、公共公益施設

- ◆ JR万葉まほろば線が縦断しており、住民の通学・通勤に利用されている。
- ◆ 名阪国道・西名阪自動車道が東西に走っており大阪・名古屋・三重からのアクセスが優れている。南北には国道169号線が走っており天理の交通の要衝となっている。
- ◆ 奈良交通路線バスやデマンドタクシーは走っているが基本的に自家用車での移動が多い。
- ◆ 観光の拠点となる場所がなくトイレが点在している状況となっている。
- ◆ 新櫛本公民館が、地元の活動だけでなく観光の拠点としても活用できる施設として平成28年11月にオープンした。
- ◆ 公立の教育機関として櫛本幼稚園、櫛本小学校、添上高校がある。
- ◆ 櫛本小学校では図書館を開放し、地域の幼稚園児だけでなく、未就学の子どもや長寿会の方々も参加されている。

JR櫛本駅1日平均乗車人員 単位:人				
	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
定期	705	693	733	715
定期外	248	246	242	240
総数	953	939	975	955

出典：奈良県統計年鑑



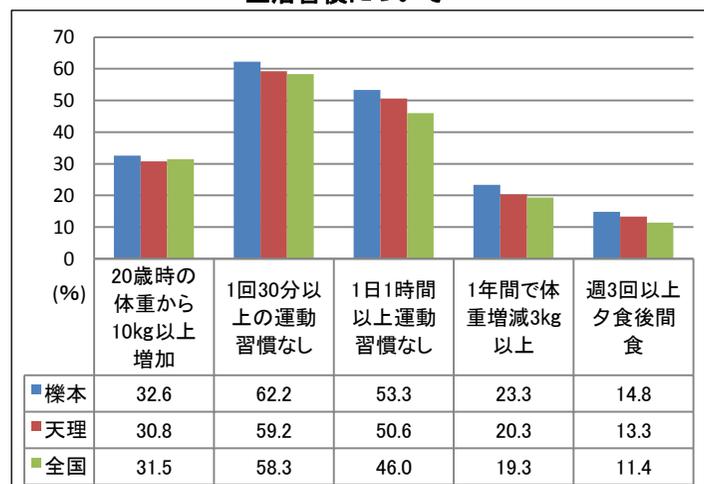
### (4) 生活、健康

- ◆ 市内他校区に比べ櫛本校区は糖尿病や高血圧症などの症状を複合した状態であるメタボリック症候群の割合が比較的高い状況となっている。
- ◆ 生活習慣として、他校区に比べ1日の運動量が少なく、夕食後に間食をする方も比較的多い傾向にある。
- ◆ 高井病院や奈良東病院など大きな病院が存在している。
- ◆ 北部地区に食品スーパーは1つで、住民の多くの方が利用している。

(%)	櫛本	天理	全国	市内順位 (9校区中)
メタボ症候群	11.9	10.6	10.7	3位
メタボ該当者	18.2	15.9	16.4	3位
非肥満高血糖	6.9	6.4	9	3位
血糖	0.7	0.6	0.6	3位
血圧	9.9	7.5	7.4	2位
血糖・脂質	1.3	0.8	0.9	2位
血圧・脂質	10.6	8.4	8.2	2位

平成26年天理市の国民健康保険の特定健診調べ

### 生活習慣について

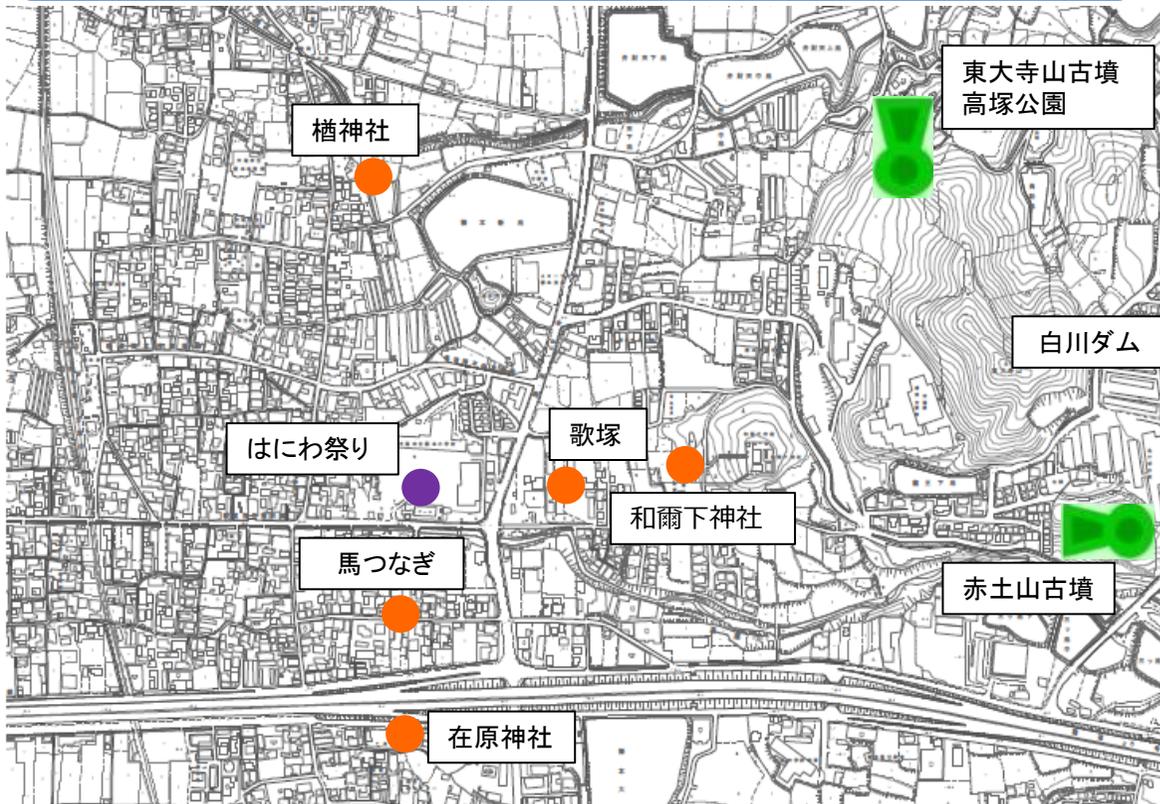


平成27年天理市の国民健康保険の特定健診調べ

## 【2】地区の現状

### (5) 歴史・文化遺産、自然、伝統文化

- ◆本殿が国の重要文化財に指定されている和爾下神社、歌聖柿本人麻呂の遺髪を葬った歌塚、在原業平を祀った在原神社、さらには8代目市川團十郎が奉納した実増井の井筒が残っている榑神社など数多くの文化遺産がある。
- ◆古代に栄えた有力豪族の墓とされる赤土山古墳や東大寺山古墳などがある。
- ◆上街道と福住方面からの道が交差した場所で、民家には「馬つなぎ」や「うだつ」など商いの町として栄えた名残が見られる。
- ◆ハイキングルートや釣り場として人気のある白川ダムがある。
- ◆遊具広場や多目的広場、見晴らしの良い展望台もある高塚公園がある。
- ◆和爾下神社では、祇園祭が毎年7月におこなわれている。
- ◆東大寺山古墳から多数の埴輪が出土しており、櫛本小学校でも古代の埴輪工房跡が発見されたことから毎年、学校と地域が一体となった「はにわ祭り」がおこなわれている。
- ◆北部地区の観光パンフレットはハイキングマップが1つあるが、作成から年数が経っている。



和爾下神社



歌塚



在原神社



榑神社



赤土山古墳



馬つなぎ



白川ダム



はにわ祭り

## 【3】地区の現状・課題とまちづくりの目標

コンセプト

地域資源×ヒト×居場所 つなげる循環まちづくり

基本目標

観光・農業など北部の魅力を活かした地域の活性化

基本方針

農業を活かした地域ブランドの構築と活性化

北部地区の特産品の情報を市内外への発信すると共に商品力強化により農業の活性化を図る。

周遊観光の魅力創出

奈良市から北部地区を通り天理駅周辺、南部地区、そして桜井市、明日香村へとつながる周遊観光を促進する。

街ナカの活性化と居場所（拠点）づくり

櫛本公民館などを拠点とし、北部地区の多世代が集い健康で楽しく過ごせるまちづくりを推進する。

北部地区の課題

- 【課題①】－農業・産業－
- ・農産物や特産品などのPR不足
  - ・農業後継者不足
  - ・耕作放棄地の増加

- 【課題②】－観光－
- ・遺産の価値の共有、活用がされていない
  - ・観光ルートの整備ができていない
  - ・広域的な交通アクセスを活かせていない

- 【課題③】－生活・健康・居場所（拠点）－
- ・人口減少・少子高齢化・生活習慣病
  - ・地域住民が集う場所の減少
  - ・医療機関などとの連携の強化
  - ・空き家や高塚公園などの施設の利活用ができていない



基本方針

農業を活かした地域ブランドの構築と活性化

- ◆特産品の開発・PR
- ◆農作物の栽培・販売促進支援
- ◆農地の利活用の促進

周遊観光の魅力創出

- ◆地域資源の魅力再発見と発信
- ◆ウォーキングやサイクリングでの周遊による観光促進
- ◆道路と公共交通機関を利用した観光客の誘客

街ナカの活性化と居場所（拠点）づくり

- ◆多世代交流のまちづくり
- ◆連携のまちづくり
- ◆既存施設などの利活用促進

- ・地元文化遺産や社寺の魅力再発見と発信
- ・SNSによる地域のイベントなど情報発信
- ・観光ルートマップ作成による北部地区の魅力発信
- ・サイクリストの誘客促進

- ・山の辺の道の支線「伝・山の辺の道」の整備
- ・市ブランディングに合わせた案内板と道標の整備
- ・街道・古道を活かした歩き方の提案とPR

- ・まこも茶などの特産品（お土産）の開発
- ・地域産品（マコモタケなど）のブランド化
- ・北部地区の主な農作物である、いちご、ぶどう、タケノコなどの生産・販売の支援
- ・エコファーマーの和爾宮農組合が手掛けるお米やマコモタケの生産、販売の支援

- ・花餅屋など商店との連携による活性化推進

- ・街中に食事処（カフェ）などを誘致
- ・地元企業と連携した街づくりの推進
- ・近畿大学など大学と連携したまちづくりの推進
- ・空き家を活用した若者の起業などの推進
- ・県所有の余剰地の利活用検討

- ・地元企業とのコラボレーション商品の開発
- ・地元企業の商品PR

- ・高井病院や奈良東病院など医療機関と連携した健康づくりの推進

上ツ道（上街道）  
まち歩きを楽しむ

伝・山の辺の道  
誘客×伝える 歴史の道

自然を楽しむ 風景の道  
奈良県ハイキングルート  
「山の辺の道」

- ・高塚公園の活用検討

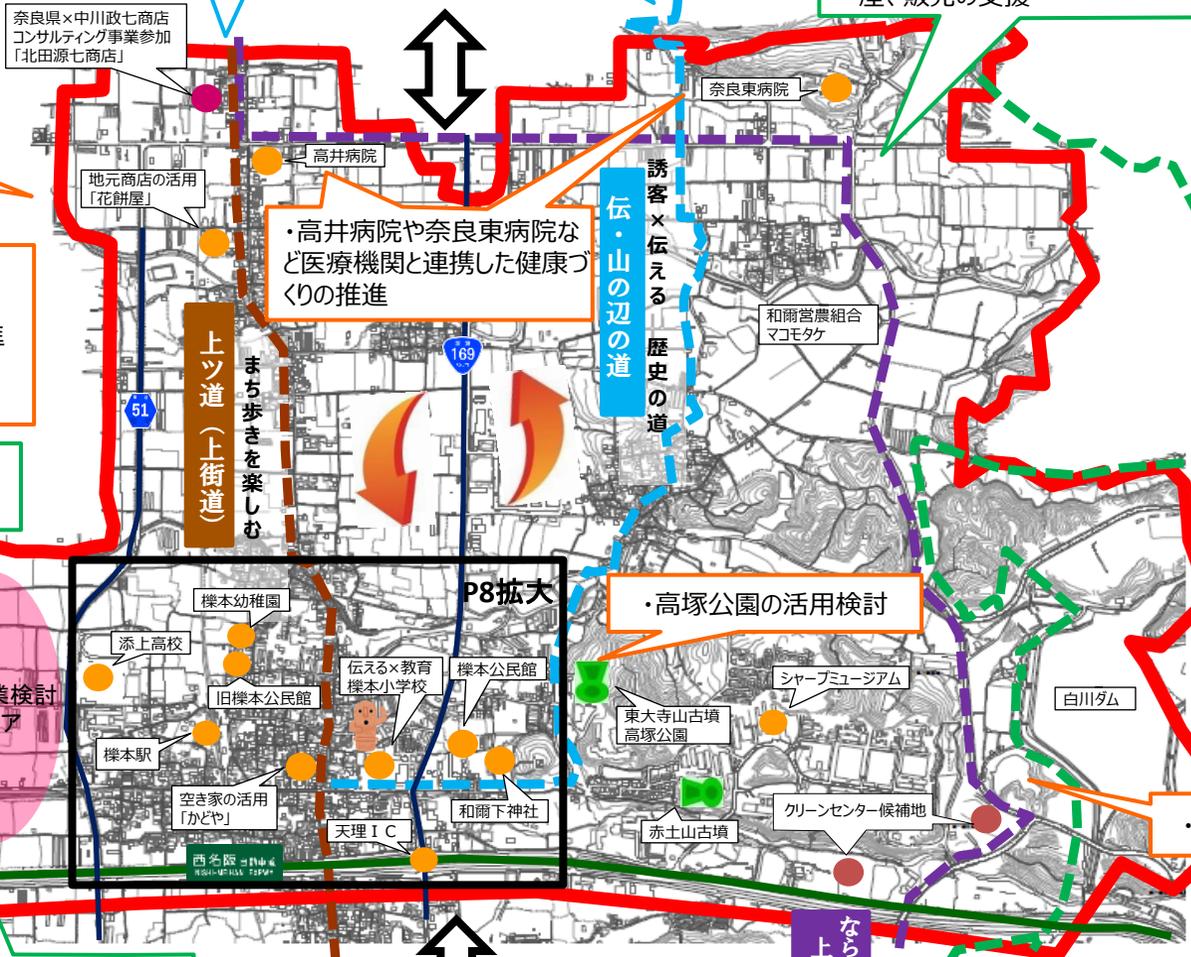
- ・白川ダム周辺の活用

6次産業検討エリア

活性化のエリア

P8拡大

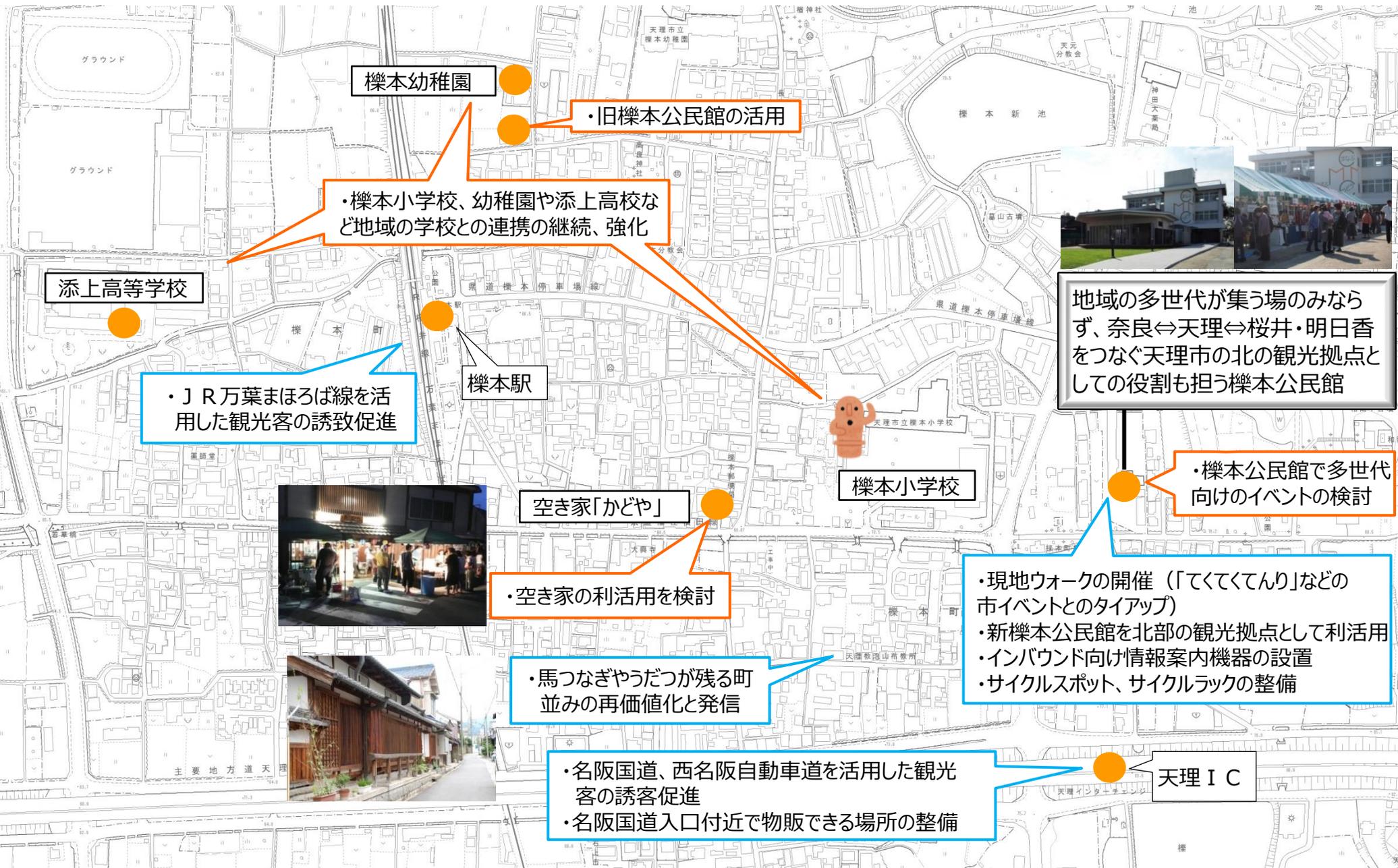
- ・農業後継者の育成
- ・放棄地対策の取組
- ・広域的な交通アクセスを活かした6次産業の検討



桜井・明日香へ

ならクル  
上ツ道ルート

# 天理市北部地区街づくり構想図（拡大図）



櫛本幼稚園

・旧櫛本公民館の活用

・櫛本小学校、幼稚園や添上高校など地域の学校との連携の継続、強化

添上高等学校

・JR万葉まほろば線を活用した観光客の誘致促進

櫛本駅

地域の多世代が集う場のみならず、奈良⇔天理⇔桜井・明日香をつなぐ天理市の北の観光拠点としての役割も担う櫛本公民館



空き家「かどや」

・空き家の利活用を検討



櫛本小学校

・櫛本公民館で多世代向けのイベントの検討

・現地ウォークの開催（「てくてくてんり」などの市イベントとのタイアップ）  
・新櫛本公民館を北部の観光拠点として活用  
・インバウンド向け情報案内機器の設置  
・サイクルスポット、サイクルラックの整備

・馬つなぎやうだつが残る町並みの再価値化と発信



・名阪国道、西名阪自動車道を活用した観光客の誘客促進  
・名阪国道入口付近で物販できる場所の整備

天理 I C

# 1. 農業を活かした地域ブランドの構築と活性化

## 特産品の開発・P R

- ・まこも茶などの特産品（お土産）の開発
- ・地域産品（マコモタケなど）のブランド化
- ・地元企業とのコラボレーション商品の開発
- ・地元企業の商品P R

## 農作物の栽培・販売促進支援

- ・北部地区の主な農作物である、いちご、ぶどう、タケノコなどの生産・販売の支援
- ・エコファーマーの和爾宮農組合が手掛けるお米やマコモタケの生産、販売の支援

## 農地の利活用の促進

- ・農業後継者の育成
- ・放棄地対策の取組
- ・広域的な交通アクセスを活かした6次産業事業の検討



マコモタケ・まこも茶



櫛本小学校 田植え体験

## 2. 周遊観光の魅力創出

### 地域資源の魅力再発見と発信

- ・地元文化遺産や社寺の魅力再発見と発信
- ・馬つなぎやうだつが残る町並みの再価値化と発信
- ・SNSによる地域のイベントなど情報発信
- ・観光ルートマップ作成による北部地区の魅力発信

### ウォーキングやサイクリングでの周遊による観光促進

- ・山の辺の道の支線「伝・山の辺の道」の整備
- ・現地ウォークの開催（「てくてくてんり」などの市イベントとのタイアップ）
- ・街道・古道を活かした歩き方の提案とPR
- ・市ブランディングに合わせた案内板と道標の整備
- ・サイクリストの誘客促進
- ・新櫛本公民館を北部の観光拠点として利活用
- ・サイクルスポット、サイクルラックの整備
- ・インバウンド向け情報案内機器の設置

### 道路と公共交通機関を利用した観光客の誘客

- ・名阪国道、西名阪自動車道を活用した観光客の誘客促進
- ・名阪国道入口付近で物販できる場所の整備
- ・JR万葉まほろば線を活用した観光客の誘致促進



馬つなぎ



櫛旅手作りフェスタ

### 3. 街ナカの活性化と居場所（拠点）づくり

#### 多世代交流のまちづくり

- ・櫛本公民館で多世代向けのイベントの検討
- ・街ナカに食事処（カフェ）などを誘致
- ・高塚公園の活用検討
- ・白川ダム周辺の活用
- ・櫛本小学校、幼稚園や添上高校など地域の学校との連携の継続、強化

#### 連携のまちづくり

- ・地元企業と連携した街づくりの推進
- ・高井病院や奈良東病院など医療機関と連携した健康づくりの推進
- ・近畿大学など大学と連携したまちづくりの推進

#### 既存施設などの利活用の推進

- ・空き家の利活用を検討
- ・空き家を活用した若者の起業などの推進
- ・花餅屋など商店との連携による活性化推進
- ・旧櫛本公民館の活用検討
- ・県所有の余剰地の利活用検討



新櫛本公民館



空き家「かどや」